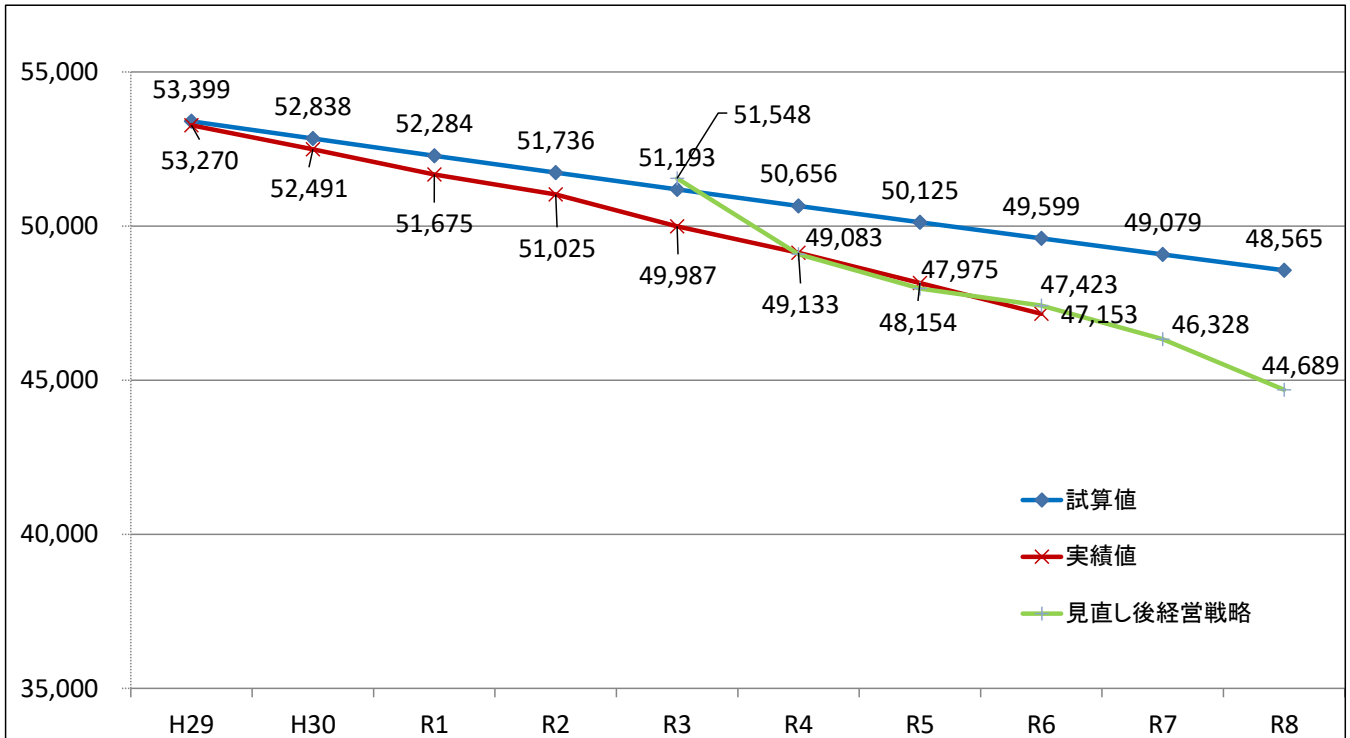


経営戦略の試算値と令和6年度決算数値の比較について

(上)資料 ③

給水人口の推移試算及び実績



給水人口の推移試算及び実績

単位:人

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
試算値	53,399	52,838	52,284	51,736	51,193	50,656	50,125	49,599	49,079	48,565
実績値	53,270	52,491	51,675	51,025	49,987	49,133	48,154	47,153		
増減	▲ 129	▲ 347	▲ 609	▲ 711	▲ 1,206	▲ 1,523	▲ 1,971	▲ 2,446		

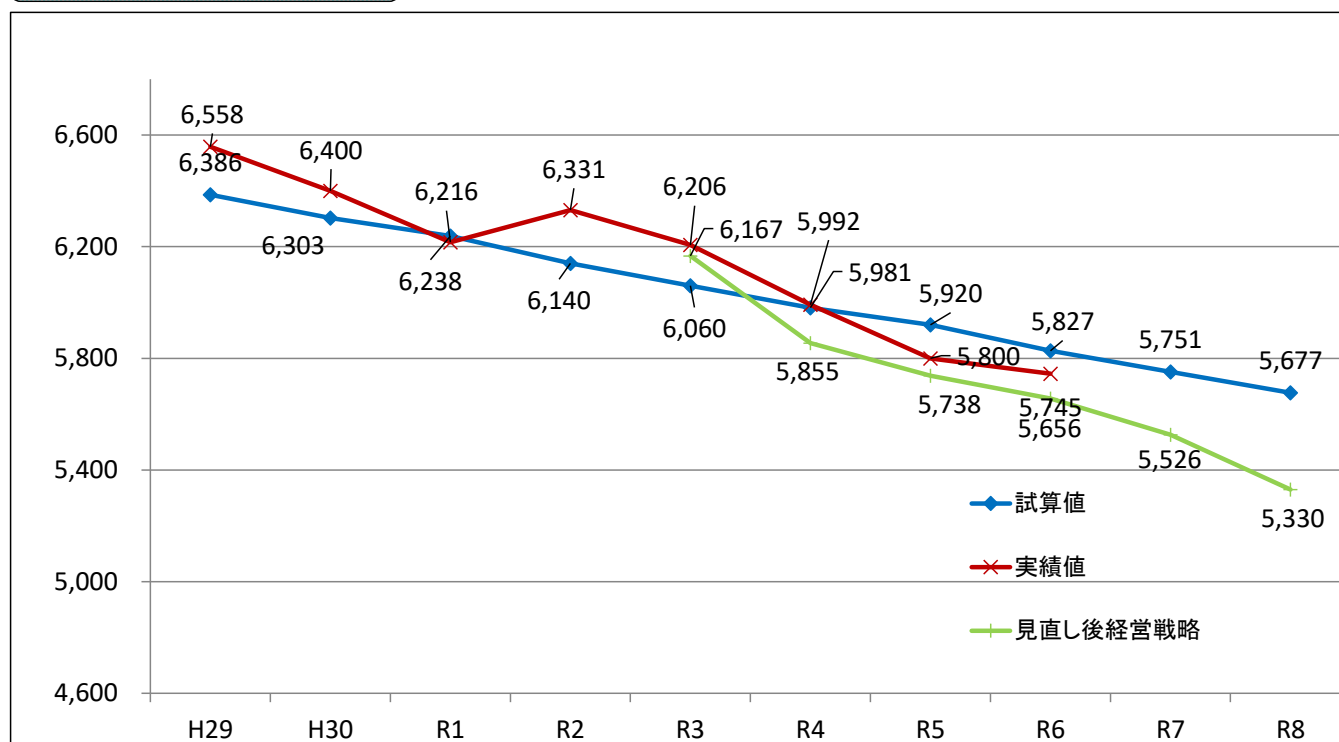
見直し後経営戦略					51,548	49,083	47,975	47,423	46,328	44,689
実績との差					▲ 1,561	50	179	▲ 270		

見直し後の経営戦略の給水人口の推移は、平成21年度から令和2年度の年度間変化を回帰分析という統計手法を用いて将来推計を行っています。また、三隅火力発電所の建設や定期点検による人口流入の影響を加算しています。

- 平成29年度実績の給水人口は、経営戦略の試算値と比べて、▲129人（0.24%減）となりました。
- 平成30年度実績の給水人口は、経営戦略の試算値と比べて、▲347人（0.66%減）となりました。
- 令和元年度実績の給水人口は、経営戦略の試算値と比べて、▲609人（1.17%減）となりました。
- 令和2年度実績の給水人口は、経営戦略の試算値と比べて、▲711人（1.39%減）となりました。
- 令和3年度実績の給水人口は、経営戦略の試算値と比べて、▲1,206人（2.36%減）となりました。
- 令和4年度実績の給水人口は、経営戦略の試算値と比べて、▲1,523人（3.01%減）となりました。
- 令和4年度の給水人口は、前年度よりも854人減少し、減少率は1.71%となっています。一方、見直し後の経営戦略では50人増加（乖離率0.10%）と近似値になっています。
- 令和5年度の給水人口は、前年度よりも979人減少し、減少率は1.99%となっています。一方、見直し後の経営戦略では179人増加（乖離率0.37%）と近似値になっています。
- 令和6年度の給水人口は、前年度よりも1,001人減少し、減少率は2.08%となっています。一方、見直し後の経営戦略では270人減少（乖離率0.57%）と近似値になっています。

経営戦略の試算値と令和6年度決算数値の比較について

有収水量の推移試算及び実績



有収水量の推移試算及び実績

単位: 千m³/年

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
試算値	6,386	6,303	6,238	6,140	6,060	5,981	5,920	5,827	5,751	5,677
実績値	6,558	6,400	6,216	6,331	6,206	5,992	5,800	5,745		
増減	172	97	▲ 22	191	146	11	▲ 120	▲ 82		

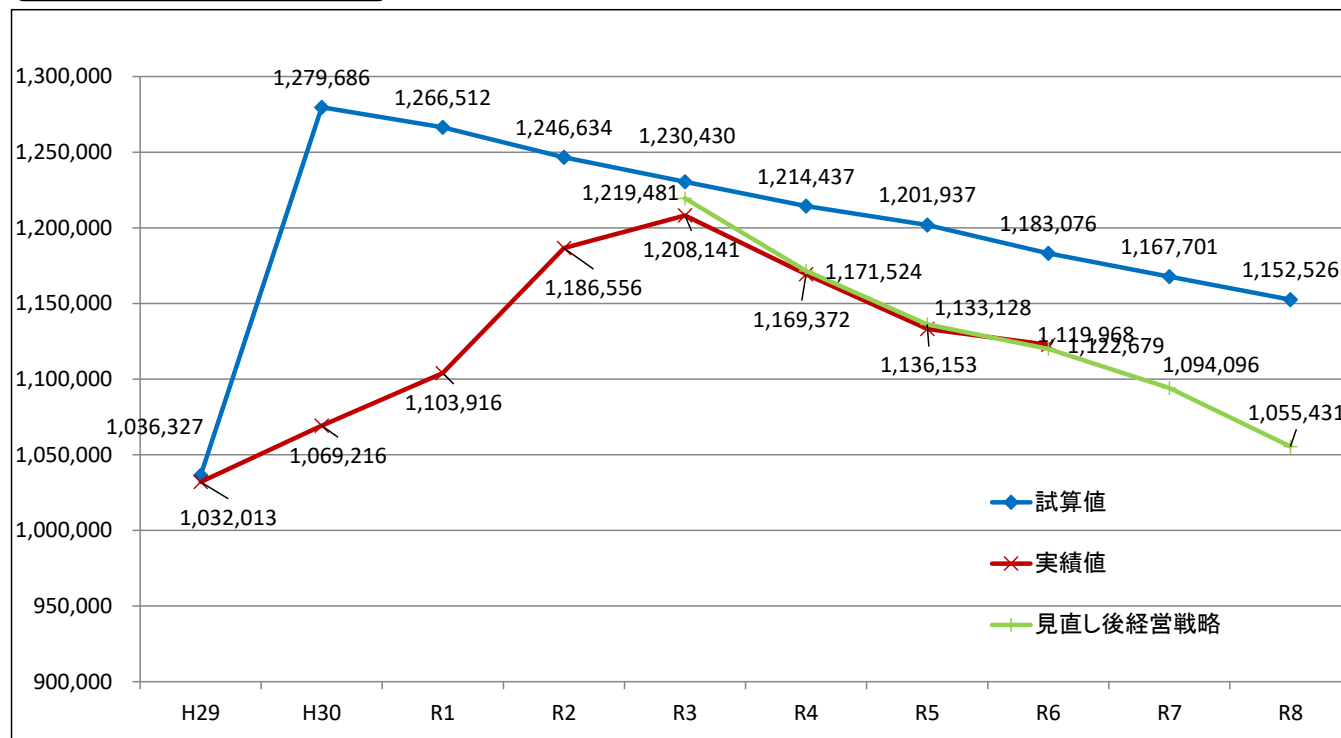
見直し後経営戦略					6,167	5,855	5,738	5,656	5,526	5,330
実績との差					39	137	62	89		

見直し後の経営戦略の有収水量の推移は、直近4年間の給水人口1日当たりの有収水量(実績)に対し、回帰分析で求めた給水人口と年間日数を掛け合わせて将来推計を行っています。

- 平成29年度実績の有収水量は、経営戦略の試算値と比べて、172千m³増(2.7%増)となりました。
- 平成30年度実績の有収水量は、経営戦略の試算値と比べて、97千m³増(1.5%増)となりました。
- 令和元年度実績の有収水量は、経営戦略の試算値と比べて、22千m³減(0.4%減)となりました。
- 令和2年度実績の有収水量は、経営戦略の試算値と比べて、191千m³増(3.0%増)となりました。
- 令和3年度実績の有収水量は、経営戦略の試算値と比べて、146千m³増(2.4%増)となりました。
- 令和4年度実績の有収水量は、経営戦略の試算値と比べて、11千m³増(0.18%増)となりました。
- 令和4年度の有収水量は、前年度よりも214千m³減少し、減少率は3.45%となっています。一方、見直し後の経営戦略では137千m³増加しており、乖離率2.34%となっています。
- 令和5年度の有収水量は、前年度よりも192千m³減少し、減少率は3.20%となっています。一方、見直し後の経営戦略では62千m³増加(乖離率1.08%)と近似値になったと言えます。
- 令和6年度の有収水量は、前年度よりも55千m³減少し、減少率は0.95%となっています。一方、見直し後の経営戦略では89千m³増加(乖離率1.57%)と上振れ傾向です。

経営戦略の試算値と令和6年度決算数値の比較について

給水収益の推移試算及び実績



給水収益の推移試算及び実績

単位: 千円(税抜)

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
試算値	1,036,327	1,279,686	1,266,512	1,246,634	1,230,430	1,214,437	1,201,937	1,183,076	1,167,701	1,152,526
実績値	1,032,013	1,069,216	1,103,916	1,186,556	1,208,141	1,169,372	1,133,128	1,122,679		
増減	▲ 4,314	▲ 210,470	▲ 162,596	▲ 60,078	▲ 22,289	▲ 45,065	▲ 68,809	▲ 60,397		

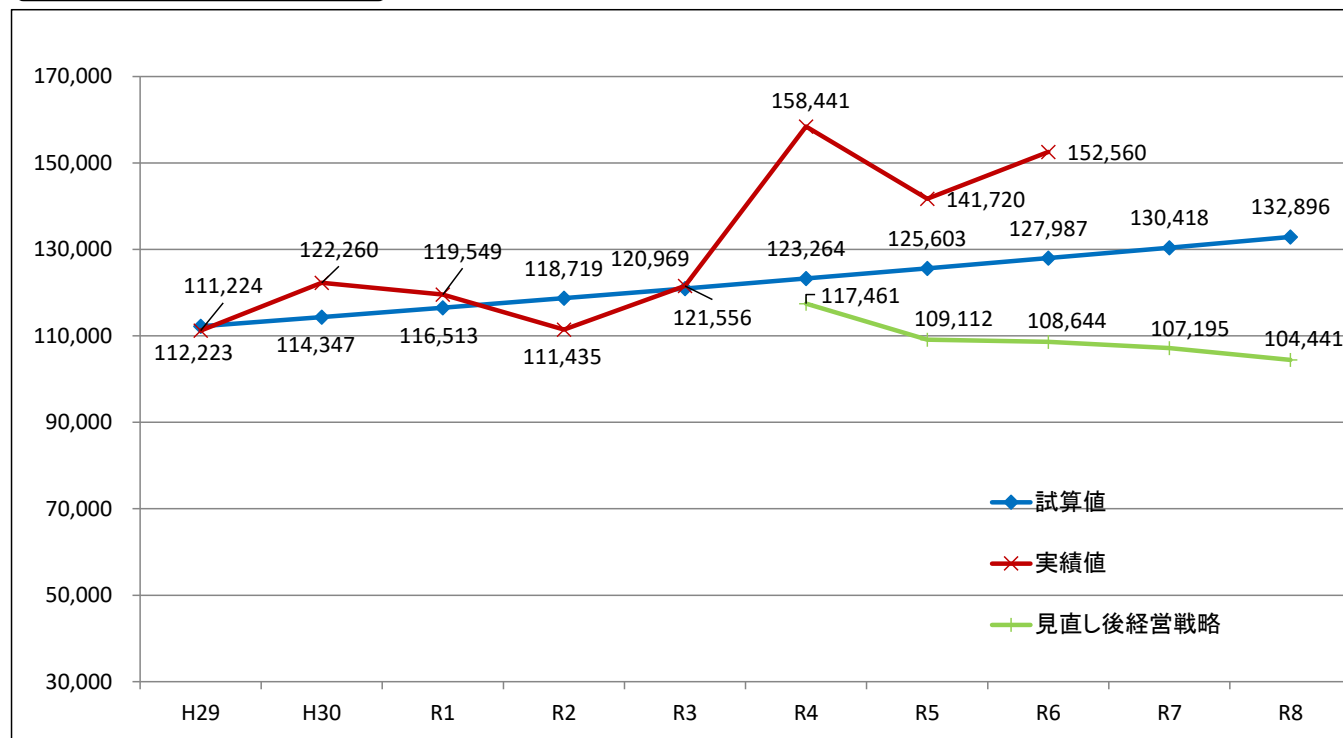
見直し後経営戦略					1,219,481	1,171,524	1,136,153	1,119,968	1,094,096	1,055,431
実績との差					▲ 11,340	▲ 2,152	▲ 3,025	2,711		

見直し後の経営戦略の給水収益の推移は、令和2年10月の料金改定後の令和3年度の供給単価(約198円/㎡)を基に将来推計を行っています。

- 平成29年3月に策定した経営戦略では、平成30年4月から上水道:約30%、簡易水道:約11%の平均改定率による料金値上げを見込んだ給水収益試算をしています。しかしながら、料金改定の開始時期は平成30年10月からとなり、しかも段階的改定を行ったことから、給水収益は経営戦略の試算値よりも大きく下振れをしています。
- 上記の料金改定にあたっての激変緩和措置に伴う減収補てんとして、一般会計から水道事業会計に対し、平成30年度に252,000千円、令和元年度に171,000千円、令和2年度に107,000千円の繰出しを行っています。
- 令和3年度実績の給水収益は、経営戦略の試算値と比べて、▲22,289千円(1.81%減)となりました。
- 令和4年度実績の給水収益は、経営戦略の試算値と比べて、▲45,065千円(3.71%減)となりました。
- 令和4年度の給水収益は、前年度よりも38,769千円減少し、減少率は3.21%となっています。一方、見直し後の経営戦略では2,152千円減少(乖離率0.18%)と近似値になったと言えます。
- 令和5年度の給水収益は、前年度よりも36,244千円減少し、減少率は3.10%となっています。一方、見直し後の経営戦略では3,025千円減少(乖離率0.27%)と近似値になったと言えます。
- 令和6年度の給水収益は、前年度よりも10,449千円減少し、減少率は0.92%となっています。一方、見直し後の経営戦略では2,711千円増加(乖離率0.24%)と近似値になっています。

経営戦略の試算値と令和6年度決算数値の比較について

動力費の推移試算及び実績



動力費の推移試算及び実績

単位: 千円(税抜)

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
試算値	112,223	114,347	116,513	118,719	120,969	123,264	125,603	127,987	130,418	132,896
実績値	111,224	122,260	119,549	111,435	121,556	158,441	141,720	152,560		
増減	▲ 999	7,913	3,036	▲ 7,284	587	35,177	16,117	24,573		

見直し後経営戦略						117,461	109,112	108,644	107,195	104,441
実績との差						40,980	32,608	43,916		

見直し後の経営戦略の動力費の推移は、直近3年間における配水量と動力費の平均値を基準に1㎡当たり平均動力費を算出し、試算した年間配水量を掛け合わせて将来推計を行っています。なお、1㎡当たりの動力費は毎年1%加算して試算しています。

- 令和4年度実績の動力費は、経営戦略の試算値と比べて、35,177千円増（28.54%増）となりました。
- 令和4年度の動力費は、前年度よりも36,885千円増加し、増加率は30.34%となっています。また、見直し後の経営戦略でも40,980千円増加（乖離率34.89%）と大幅に上振れています。
- 令和5年度の動力費は、前年度よりも16,721千円減少し、減少率は10.55%となっています。しかしながら、見直し後の経営戦略では32,608千円増加（乖離率29.88%）と、依然高止まりしている状態です。
- 令和6年度の動力費は、前年度よりも10,840千円増加し、増加率は7.65%となっています。また、見直し後の経営戦略では43,916千円増加（乖離率40.42%）と、大幅に上振れています。